

各種ワクチンで予防する病気の知識

【 四種混合ワクチン 】

ジフテリア：ジフテリア菌が咽頭に感染して、気道閉塞をおこします。呼吸ができなくなったり、神経や心臓にも感染する危険があります。

破傷風：破傷風菌が傷から感染します。筋肉のけいれんが見られ、身体を弓なりに後屈し痛みを伴い、呼吸困難をおこします。

百日せき：百日せき菌が咽頭に感染して、風邪のような症状が現れます。せきが長く続き、肺炎や無呼吸による脳症やけいれんも心配されます。

ポリオ：ポリオウイルスにより感染します。風邪のような症状が現れますが、感染しても症状が出ない場合もあります。手足が麻痺する運動障害をおこす危険があります。

【 ヒブワクチン 】

ヒブ（ヘモフィルス・インフルエンザ菌 b 型）感染症は、鼻や咽頭から血液中に感染することにより、細菌性髄膜炎による脳障害・喉頭蓋炎や肺炎による呼吸困難の症状がおこります。重症化する危険があります。

【 小児用肺炎球菌ワクチン（プレベナー） 】

肺炎球菌感染症は、鼻や咽頭から血液中に感染することにより、細菌性髄膜炎による脳障害・肺炎による呼吸困難の症状がおこります。重症化する危険があります。程度の強い中耳炎を引き起こす原因菌でもあります。

【 MR（麻疹・風疹混合ワクチン） 】

麻疹：咳・鼻水・発熱などの症状があり、高熱が7～10日間続き、3～4日目には全身に発疹が現れます。合併症として気管支炎・肺炎・脳炎をおこしやすいです。

風疹：熱を伴わない場合もありますが、全身に発赤疹が現れます。合併症として脳炎・血小板減少性紫斑病がおこることもあります。女性が妊娠初期に感染すると、胎児への感染の危険性があります。

【 日本脳炎ワクチン 】

日本脳炎ウイルスは、感染した血が蚊を介して人間に感染します。感染しても症状が出ない場合が多いのですが、脳炎をおこす危険があります。

【 水痘（みずぼうそう）ワクチン 】

水痘帯状疱疹ウイルスによる感染で、発熱が見られ、始めかゆみを伴った小さい発赤疹が現れ、それが中央に水を持った発疹に変わり、やがて破れて水が出た後はかさぶたに変わっていきます。頭皮を含め全身に広がり、7日程度でかさぶたになります。合併症として、脳炎・肺炎・重い皮膚の感染症などがあります。

【 おたふくかぜ（流行性耳下腺炎）ワクチン 】

耳の下にある耳下腺の腫れが見られます。全身の炎症や発熱などもおこすため、風邪との鑑別が難しい場合があります。痛みで食事が取りにくくなることもあります。合併症として無菌性髄膜炎・重度の難聴の危険性があります。

【 B型肝炎ワクチン 】

B型肝炎ウイルスも持つ母親、家族、友達などから感染します。肝炎から慢性化すると肝硬変・肝癌などにつながるため心配があります。

【 ロタウイルスワクチン 】

ロタウイルスによるロタウイルス胃腸炎は、乳幼児のほとんどが感染します。発熱を伴う激しい嘔吐・下痢は脱水やけいれんをおこしやすいです。合併症として脳炎・脳症の危険もあります。

【 インフルエンザワクチン 】

インフルエンザウイルスの感染によって、高熱が出ます。気管支炎や肺炎をおこしやすく、脳炎・脳症など重症化する危険性も高いです。